

授業支援ソフト導入に係る仕様書

1. 目的

本仕様書は、八尾市立学校における児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するため、思考の可視化、リアルタイムな情報共有、および学習履歴の活用を支援する授業支援ソフトの導入に関する必要な事項を定めるものである。

2. 利用環境

(1) 導入ソフトの基本方針

本件にて導入するソフトの基本方針は、以下のとおりである。これらの方針をふまえたソフトを提案すること。

- ① 学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現につながることを。
- ② 児童生徒の個別の学習経過が把握しやすいなど、教員の負担軽減及びきめ細やかな指導につながることを。
- ③ GIGA スクール構想の概要をふまえ、クラウド基盤で稼働すること。
- ④ 本市の学力向上の取組みである「指導と評価の一体化」「言語活動の充実」「情報活用能力の育成」につながることを。

(2) 利用者（令和8年5月1日時点）

- 児童生徒数：18,063 人
- 教職員数：1,415 人
(教育委員会事務局教職員 33 人を含む)

【参考】端末について

- 児童生徒：Lenovo 300w Yoga Gen 4
- 教職員：ASUS ExpertBook BM1503CDA
Dynabook S73/HU
- 主なブラウザはMicrosoft Edge を使用

(3) 利用場所

- ① 八尾市立学校 計 42 校
内訳：小学校 27 校、中学校 14 校、義務教育学校 1 校
- ② 各家庭（端末持ち帰り時の家庭学習の場合）
- ③ 八尾市教育委員会

(4) 利用期間

令和9年2月1日から令和14年3月31日まで（62ヶ月間）

(5) 利用環境

- Microsoft Edge に対応していること。
- クラウドサービスによる提供かつ、使用する端末へのインストール作業や個別のネットワーク設定が不要であること。
- ソフト使用にあたり、フィルタリングサービスにおける除外リスト登録等による設定変更は可とするが、その他本市におけるフィルタリングの構成の変更を必要とする提案は不可とする。

3. サービス提供形態および基本要件

(1) 提供形態

インターネットを介したクラウド型サービス（SaaS）であること。

(2) 動作環境

- ① 児童生徒および教職員に配備済みの端末等（Windows、ChromeOS、iPadOS）の標準ブラウザで動作し、専用アプリのインストールを必須とせずに全機能が利用できること。
- ② 1 端末あたり 1 Mbps 程度の低帯域環境下においても、円滑に動作するように配慮されていること。

(3) アカウント認証

Microsoft アカウントからのシングルサインオン（SSO）によるログインが可能であること。

(4) セキュリティ

- ① 政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）登録済み、または ISO27001、ISO27017、プライバシーマーク等の情報セキュリティ認証を取得した環境で運用されていること。
- ② 万全なバックアップ体制を有すること。

4. 授業支援・指導管理機能

(1) モニタリング機能

教員は、児童生徒の作業画面や学習状況をリアルタイムで一覧表示し、個別に助言や指導ができること。

(2) 画面共有・提示

教員または特定の児童生徒の画面を、クラス全員の端末にリアルタイムで同期・提示できること。

(3) 教材の配付・回収

教員が作成した教材（PDF データ、動画、リンク等）を配付・回収できること。

(4) 操作制限

必要に応じて、教員がソフトウェア内での児童生徒の端末操作を一時的に制限・制御できること。

5. 学習活動・協働学習機能

(1) ワークスペースの使い分け

「個人での思考」「グループでの協働」「クラス全体での共有・発表」などの各場面に応じた領域を、柔軟に設定・管理できること。

(2) 多様なオブジェクトの配置

テキスト（縦書き・横書き両対応）、手書き描画、画像、動画、音声、および PDF 等のデータ類をソフト上に読み込み、共有することができること。

(3) リアルタイム同時編集

同一の共有エリアやカードに対し、複数名のユーザーが遅延なく同時に書き込みや編集を行えること。

(4) 思考の構造化支援

シンキングツール等を活用し、思考を整理・可視化できること。

6. 教職員・管理者向け機能（運用支援）

(1) フィードバック機能

教員は提出物に対し、コメント付与、ペン描画による添削、スタンプ付与等による評価・返却が行えること。

(2) 学習状況の可視化

児童生徒の回答や反応を、キーワード集計や選択肢集計、ワードクラウド等により、クラス全体の傾向として可視化できること。

(3) ポートフォリオの蓄積

作成した成果物や評価履歴を保存し、単元や学年を跨いで継続的に参照・振り返りができること。

(4) データ引継ぎ

市内での転出入や小学校から中学校への進学時において、学習履歴やアカウント情報を継続して管理できる仕組みを有すること。

(5) 教育委員会管理機能

市全体の活用状況（ログイン数、活用率等）を統計的に把握・出力できる管理機能を有すること。

7. 運用保守・サポート体制

(1) 導入・活用支援

教職員向けの操作研修会（オンライン含む）の実施、および活用事例集やマニュアルを提供すること。

(2) ヘルプデスク

教職員および管理者からの問い合わせに対応する専用のサポート窓口（電話・メール等）を設置すること。

(3) データ保護

作成したデータを、児童生徒が許可なく削除できない権限設定が可能であること。

(4) 無償アップデート

必要に応じて、契約期間内における OS のバージョンアップ等に伴うシステム・データの更新に対応すること。